

# 東日本大震災津波復興特別委員会現地調査

平成 25 年 6 月 13 日 (木)

## 《山田町NPO破産・補助金問題に対する質問》

山田町役場で現況・課題など一  
通りの説明を受けた後、質疑意  
見交換において質問をしまし  
た。私がいち早く疑問を投じて  
いた「大雪りばあねつと」の問  
題が復興に与える影響・財政上  
の影響についてです。副町長の  
答弁は、補助対象外となってい  
る五億二百万円は、相手方が破  
産しているの、山田町が負担  
することになっている。二三年  
度分も再調査をすることとなっ  
ており、さらに負担が増える可  
能性がある。現時点での住民か  
らの苦情などが多いが、復興を  
進めるに当たり支障は見当たら  
ない。財政面については、財政

調整基金で対応し、財源不足に陥  
る状況ではないと。  
さらに、町の対応が遅かったと  
の印象がある。県への要望は？と  
質問。副町長の答弁は、昨年  
一二月に相手方の代表から事業  
費が枯渇した旨の連絡を受け認  
識した。対応が遅いと指摘がある  
が、民事訴訟等になすべき手続き  
を踏んだ結果と考えている。  
町長は、相手方からの協力がな  
い中で調査に時間を要した。県へ  
の要望については、第三者委員会  
から、今後県と話をする余地があ  
るとのアドバイスを受けている  
ことから、その方向で考えてい  
る。との答弁でした。

## 《国際リニアコライダー計画の動き》

日本の研究者による I L C 立地評価会議は、今年 8 月 23 日に  
国内建設候補地を北上サイトに一本化した。背振サイトに対し  
て、技術評価で大きな差があり、工期やコストを比較すると北上  
サイトが優位であると判断された。文部科学省は、計画に関する  
調査検討費として、50 百万円を概算要求。海外の研修者及び I  
L C 実験を支える世代の小中学生に向けた情報発信の強化や、建  
設主体が行う自然環境等基礎調査の猛禽類調査費用を、9 月補正  
予算を要求予定。誘致には、ホスト国の負担費用、実験参加国  
の費用負担、研究者人員確保等見通し不透明な課題が多々ある。

# 新産業創出調査特別委員会

岩手の復興と再生に岩大パワーを～

## 『岩手県における新産業の創出に向けた課題と展望』

八月七日に開催された委員会  
において、岩手大学副学長 岩  
淵明氏の講演を聴く機会を得  
た。テーマは『岩手県の課題 産  
業振興で復興を！』、生業の再  
生、高い発信力を持った地域資  
源活用する社会をつくる。

岩手大学の取組みを紹介して  
いただいた。『岩手の復興と再生  
にオール岩大パワーを』と題し  
て、岩手大学 三陸復興機構釜  
石サテライト 三陸水産研究セ  
ンターの紹介、復興における岩  
手大学の役割として 若い力六  
千人の学生、各分野の専門家四  
百人の教員で復興に寄与する研  
究、貢献できる人材育成。  
新産業創出に関わる事業とし

て、農林畜産業・水産業・もの  
づくり産業の各復興推進部門の  
現況を紹介してくれました。  
未来づくり機構産業復興WG  
(ワーキンググループ)が指摘す  
る課題は、人が集まらない、グ  
ループ補助金で採択されても四  
分の一の負担がでず倒産、何  
をすべきかの戦略・ビジョンが  
少ない等多々問題はありますが、今  
話題となっている I L C 国際リ  
ニアコライダーへの期待が高ま  
っている。岩大では貢献の可能  
性を探り、新たな産業、雇用の  
場、経済効果、復興のシンボル  
となり子供たちに夢を与える。  
魅力的な雇用があれば、人は  
来る。岩手大学のプロジェクト

地元定着率を上げるために教育プ  
ログラムが作られている。  
新産業の目的は、「基本は地域で  
必要な人材は地域是認で育てる。  
その環境を地域で作る」と、締め  
くくられた。



I L C 建設候補地最高地点付近。阿原山(江刺市)

# 政務調査活動記録・・・農・水産業を考える

米穀園芸生産流通議員研究会

## 欧州農業事情視察研修 H25. 8. 17～22

大規模トマト施設栽培企  
業(トマトワールド社)、トマ  
ト栽培農家の視察を中心  
に研修をしました。トマト  
ワールドでは、様々な品種も  
展示し、試食させながらトマ  
トの魅力を解説してくれた。  
約八〇品種を栽培している。  
基本的には無農薬、大規模で  
なければ生き残れなくなっ  
ている。  
農産物流通研究の一環で、  
一年間休学してきていた北  
海道大学農学部学生に出  
会った。  
ベルギーのトマト栽培農家  
を視察。この園地は房取りの



トマト・ミニトマトを主体に、  
ベルギー型の環境保全型の栽  
培法である。培地は地面に設  
置され施肥・冠水は点滴、受  
粉はマルハナバチ使用。果実  
は、下部から上部まで一房五  
果で着果させている。労務管  
理はすべて I T 化されてい  
る。

水産振興議員懇談会

## 北海道現地調査・研修会 H25.8.26～28

北海道函館市の漁業の現  
状と課題について及び函館  
市水産物地方卸売場におい  
て、市の魚である「イカ」等  
の水揚げ状況についての調  
査。また、南かやべ漁協の白  
尻漁港の屋根付岸壁及び八  
雲町漁協のほたてがい養殖  
などについて調査。  
白尻漁港の屋根付岸壁：  
越波防止、親水性、快適な作  
業環境を創出する屋根付岸  
壁(カモメドーム)を対岸か  
ら視察した。ドーム式岸壁は  
沖側の消波ブロックを少な  
くできるため、その分、磯根  
(コンブ) 漁場を広く活用で  
きる。

八雲町漁協のほたてがい養  
殖：養殖世帯数は約一二〇世  
帯、平均で一世帯が約四千メー  
トルの養殖施設を所有。岩手県  
のほたてがい養殖の現状と養  
殖農家の生産規模が大きく異  
なることなど確認した。



屋根付岸壁 (カモメドーム)